



RI 会長：シェカール・メータ  
2620 地区ガバナー：小林 聡一郎  
会長：妻鹿 政光 幹事：齋藤 高子 会場監督：佐々木 雄二  
例会：毎週金曜日 19：00～20：00

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために グランドホテル浜松 〒432-8507 浜松市中区東伊場 1-3-1 Tel：053-450-3003 Fax：053-450-3006  
E-Mail：hamamatsu-naka@ri2620.gr.jp

2021年10月22日（金） 晴 第1567回例会 週報 NO. 6

司会：内山 義之 副会場監督  
点鐘：妻鹿 政光 会長  
ロータリーソング  
「それでこそロータリー」

ゲスト

公益財団法人 浜松国際交流協会  
鈴木 恵梨香様

会長挨拶



1週間前はまだ冷房を使っていたのにもう暖房が必要です。体調にはくれぐれもお気を付けください。私の家電業界の話ですが、今年の夏は過去の記憶にないくらい暑くなく、エアコンが売れませんでした。7・8月は前年比50%、先月は27%減だそうです。

コロナ禍の中、残りの例会がどのようなのか。年末年始、第6波が来る心配もありますが、プログラムを順当にこなしていけるのではと思っています。大きなイベントである12月の家族会と6月の35周年記念もできるだけ行いたいと思っています。ただ、近づかないと確かなことは言えません。

来月はファイヤーサイドをリアルで開催予定です。テーマは「コロナ禍でも、より充実した活動をするアディア募集」。皆様のご意見を理事会で話し合い、できることはやっていきたいと思っています。

久々にお酒も飲み、おいしいものを食べながら、良い話をして盛り上がってください

今日は久々の卓話です。お話にしっかり反応していただけるとお話をする人も盛り上がって話ができることと思います。

幹事報告



・次週は浜松江之島高校環境保全ポスター審査会です。ご出席をよろしくお願いいたします。

委員会報告

☆川合弘高 青少年奉仕部会長  
来週は江之島高校のポスター審査会で27名の生徒さんが参加します。ぜひご出席いただき、厳正なる審査をお願いいたします。



スマイル

♪妻鹿政光さん、齋藤高子さん  
本日は浜松国際交流協会の鈴木様にお越しいただいております。「浜松の外国人事情について」卓話をしていただきます。コロナ禍

で活動にご苦勞もおありかと思ひます貴重なお話を伺えることに感謝いたします。



♪植山和人さん

HICE 鈴木さん、本日はお越しいただきありがとうございます。仕事柄、車両販売の電話や訪問は慣れていますが、卓話依頼をすることはないので緊張しました。早く引き受けてくださり本日を迎えることができました。浜松市の外国人事業についてどんな話が聞けるか楽しみです。



卓話

「浜松の外国人事情について」

☆ゲスト紹介：

植山和人 国際奉仕部会長  
鈴木さんは浜松市出身。2013年よりHICEにお勤めです。事業コーディネーターとして国際交流イベントや講座の企画・運営をしています。そのほかHPなどで情報発信することにも力を入れているそうです。

《鈴木 恵梨香様》



浜松国際交流協会 (HICE) は浜松市に住む市民を対象に生活相談をしたり情報を提供したり、人と人をつなげたり、文化交流や日本語の学習の場を提供などを行っている組織で多文化共生を推進するために仕事をしています。国際交流協会は全国にあり、市や県の外郭団体です。

浜松市の施設として、HICE は多文化共生センターと外国人学習支援センターの 2 つを運営しています。私は多文化共生センターから来ました。

私は高校まで浜松で育ちました。出身の小中学校には普通に外国人生徒がいるという時代と土地柄でしたので、外国人に対して興味もなければ偏見もないという過ごし方をしていました。関西の大学に進学し、ゼミの教授がインカ帝国の専門家だったので卒論は中南米をテーマにしようと思いました。その時に浜松にブラジル人が多いことに気が付いたのです。すぐに調べて、ブラジル移民のことがわかり、卒業論文にはそれを取り上げることにしました。その後、浜松のブラジル人の生活や浜松の街づくりなどが気になり出し、急遽、受験して静岡文化芸術大学大学院に入学することになりました。修士論文は浜松における音楽を通じた多文化共生ということで、外国人が対等に暮らしていくための相互理解の場がないかという研究をしました。卒業後は研究テーマに沿ってHICEに就職し今に至ります。

浜松には現在何か国の人が住んでいると思いますか？実は90か国の方がいます。ブラジル人が9500人、次いでフィリピン、ベトナム、中国、ペルー、韓国、インドネシアとなっています。

ブラジル人が多いのは、1990年に日本の入管法が変わってからです。1908年から日本からの移民が始まりましたが、その1世の人だけでなく、2世、3世の人まで在留資格が取れるようになり、たくさんの方が働きにくるようになりました。日系であるとか日本にルーツがあるという身分をもとに認定される「定住者」の在留資格です。増えたのは工場地域で、ブラジルではホワイトカラーや医者だった人も、日本に来て工場で働くようになりました。工場は日本語が話せなくても働けるし、当時日本は景気が良く、製造業では人手が足りていませんでした。時給が少しでも高い所があれば、そちらに引っ越すという形で転々としている人が多いです。静岡県では工場の多い西部地域にたくさんの方がいます。

2008年の3万人をピークに以降は急に人数が減りました。これはリーマンショックの影響です。当時は派遣社員で首を切られると同時に住んでいるアパートも追い出される人もいました。HICEにも朝から相談に来る日系人の行列がありました。これをきっかけに、職場の送迎に頼らず自分で車を買うとか、アパートを自分で借りる、日本語を勉強するなど、生活の意識が変わりました。

この頃激減した外国人人口は、2016年ごろから微増になってきました。これは技能実習生が増えているからです。

1990年代の初めに出稼ぎとして最初は3年くらいのつもりで来日した人たちですが、そのうち結婚し子供が生まれて、子供のために日本に残ろうと定住化が進みます。そのうち子供が学校で勉強すると永住を決意する人も増えていきます。その子供ももう成人をする時代になっています。

浜松市には小中学校146校あり、そのうち124校に外国籍児童がいます。国籍は南米系が6割ですが、最近は多国籍化が進んでいます。

浜松は身分を基にした定住者、永住者、日本人配偶者などの在留資格を持つ人が8割弱います。技能実習生の比率も増えています。浜松は圧倒的に長く安定して暮らしている人が多いという特徴です。

長期的に住んでいる人が多いだけでなく、日本の国籍に帰化した人、外国生まれだけれど日本国籍を持っているという人もたくさんいます。ですから外国にルーツを持つ人の数はもっと多いかと思います。

HICEで受ける相談については去年の5月は700件、6月は1000件を超えました。リーマンの時のように失業しても母国に帰るのが難しい状況で、フードバンクとの協力も行っていきます。

一方浜松で生まれて育っている外国人の若者もたくさんいます。彼らは自分たちの経験を何かに活かしたいと活動しています。その取り組みが最近全国で紹介されたり、国や市の事例集に掲載されたりしています。

留学生と彼らの違いは、留学生は母国で勉強し、自分の意志で来日しています。でも外国にルーツを持つ大学生は親の都合で来日し、日本の学校を卒業し、普通の一般入試で進学しています。留学生の場合はアルバイトも限られています。

浜松では外国人イコール英語ではありません。まずは日本語、優しい日本語で話していただければと思います。

\*\*\* \*\*

今回の担当

SAA 内山 義之 副会場監督



## \*\* 出席報告 \*\*

伊藤 真 出席委員

会員数	45名
出席者数	28名
出席算定会員数	38名
出席率	73.68%

前々回出席者  
31名  
修正出席率  
84.21%

